

平成 2 9 年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書
(平成 2 8 年度対象)

平成 2 9 年 1 1 月

人吉市教育委員会

目 次

く は じ め に 〉	1
人吉市教育委員会委員名簿（平成29年11月28日現在） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	
1 教育委員会の活動及び運営状況	2
(1) 教育委員会の概要	2
教育委員会の目的	2
人吉市教育委員会委員（平成28年度の教育委員）	2
(2) 教育委員会の主な活動内容	2
教育委員会の活動状況	2
教育委員会会議	3
① 会議の開催状況（平成28年度実績）	3
② 審議状況	3
総合教育会議	3
① 会議の開催状況（平成28年度実績）	3
② 審議状況	3
教育委員の活動	3
① 教育委員の所管施設訪問状況	3～6
2 点検評価の目的	7
3 学識経験者の知見の活用	7
○ 学 識 経 験 者	7
4 点検評価の対象	8
○ 人吉市教育委員会が点検及び評価を行った事業	8
5 点検評価の結果	8
(1) 点検評価シートの見方	9～10
(2) 総合評価基準	11
(3) 点検評価シート	
目次	12
こども王国保安官事業	13～14
特別支援教育支援員配置事業	15～16
学校給食費滞納対策事業	17～18
人吉市学校支援地域本部事業	19～20
ひとよし春風マラソン事業	21～22
人吉城歴史館管理運営事業	23～24
犬童球溪頭彰音楽祭個人コンクール事業	25～26
図書館まつり事業	27～28
く 教 育 方 針 〉	29

〈はじめに〉

人吉市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民への説明責任を果たすため、平成28年度事業の点検及び評価を実施し、その結果を報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表します。

人吉市教育委員会

人吉市教育委員会の構成

(平成29年11月28日現在)

教育長	末次 美代
委員（教育長職務代理者）	西口 詳一郎
委員	尾方 篤
委員	永田 ミキ
委員	長船 法文

地方教育行政の組織及び運営に関する法律〈抜粋〉

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会の活動及び運営状況

(1) 教育委員会の概要

〈教育委員会の目的〉

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会の基本理念として、地方公共団体における教育行政は、教育基本法の主旨にのっとり、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、国との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行われなければならないとなっています。

本市においては、人吉市第5次総合計画を上位計画として、人吉市教育振興基本計画に基づいた教育目標の達成に向けて、教育委員会委員及び事務局を中心に高い使命感を持ちながら市民の意向を反映した責任ある教育行政が実現できるように努力しています。

〈人吉市教育委員会委員（平成28年度の教育委員）〉

役職名	氏 名	就 任	任期満了
教育長（新制度教育長）	末 次 美 代 (平 27.7.1 就任)	平成 27 年 7 月 1 日	平成 30 年 6 月 30 日
委員（教育長職務代理者）	西 口 詳一郎 (平 27.7.1 就任)	平成 26 年 4 月 10 日	平成 30 年 4 月 9 日
委員	宮 山 惇	平成 21 年 10 月 1 日	平成 28 年 9 月 30 日 (辞 任)
委員	尾 方 篤	平成 25 年 7 月 1 日 平成 29 年 7 月 1 日再任	平成 33 年 6 月 30 日
委員	永 田 ミ キ	平成 28 年 10 月 1 日 平成 29 年 1 月 1 日再任	平成 32 年 12 月 31 日
委員	長 船 法 文	平成 28 年 10 月 1 日 平成 29 年 10 月 1 日再任	平成 33 年 9 月 30 日

(2) 教育委員会の主な活動内容

〈教育委員会の活動状況〉

教育委員会の活動としては、教育委員3名（年度途中から4名）で、小学校6校、中学校3校、計9校の学校訪問を行い、教育現場の声を活かした教育行政を推進しています。

教育委員としての見識を広め今後の本市教育行政の推進に生かすために、平成28年8月に大分県日田市の咸宜園教育研究センター・大分市の七瀬の里Nクラブを視察し、日本遺産認定後の活動や総合型地域スポーツクラブの取組を研修し理解を深めました。

教育委員会の運営としては、教育委員会会議を年15回開催し、審議事項50件、報告・協議等14件について審議・協議を行い、今後取組むべき事業の方向性を決定しました。更に、「広報ひとよし」を利用し、定例の教育委員会会議等への傍聴の呼びかけを行い、開かれた教育委員会を目指しています。

〈教育委員会会議〉

① 会議の開催状況（平成28年度実績）

会 議	開 催 数	傍聴者数
定例会	12回（月1回）	8人
臨時会	3回	0人

② 審議状況

（ア）付議案件数

議案	50件
報告・協議等	14件

（イ）会議に付された主な案件

- ・人事案件について
- ・教育委員会の点検及び評価について
- ・規則・要項の制定及び改正について
- ・奨学生の決定について
- ・一般会計予算について
- ・人吉市学校運営協議会委員の任命について
- ・損害の賠償について

〈総合教育会議〉

① 会議の開催状況（平成28年度実績）

（ア）11月開催（第1回）

② 審議状況

（ア）協議事項 2件 教育委員出席状況 4名

（イ）会議に付された主な案件

- ・学校給食費助成金について
- ・小学校運動部活動の社会体育移行に伴う経過と今後の動きについて

〈教育委員の活動〉

①教育委員の所管施設訪問状況

（ア）学校訪問

区 分	対 象	期 日	教育委員出席状況
小学校訪問	6校	平成28年7月～ 平成28年11月	延べ19人
中学校訪問	3校		延べ11人

(イ) 他の主な会議・行事等

会議・行事等	期日	教育委員 出席状況
教職員辞令伝達式及び宣誓式	平成 28 年 4 月 1 日	4 名
勤労青少年ホーム開講式	平成 28 年 4 月 5 日	4 名
市内小・中学校入学式	平成 28 年 4 月 11 日	4 名
人吉球磨学校教育振興協議会総会	平成 28 年 4 月 20 日	1 名
人吉文化協会定例理事会	平成 28 年 4 月 22 日	1 名
学校支援推進協議会	平成 28 年 5 月 9 日 平成 28 年 8 月 4 日 平成 28 年 11 月 24 日 平成 29 年 1 月 16 日	1 名
人吉市スポーツ推進委員総会	平成 28 年 5 月 11 日	1 名
市 PTA 連絡協議会総会	平成 28 年 5 月 12 日	1 名
カルヴァーリョ・ラッソ人吉総会	平成 28 年 5 月 13 日	1 名
中原校区公民館総会	平成 28 年 5 月 14 日	1 名
中学校体育大会（一中・二中）	平成 28 年 5 月 15 日	2 名
人吉市文化財保護委員会（第 1 回）	平成 28 年 5 月 16 日	1 名
第 58 回全国都市教育長協議会定期総会 並びに研究大会徳島大会	平成 28 年 5 月 19 日 ～5 月 20 日	1 名
小学校運動会（三中は大畑小と合同）	平成 28 年 5 月 22 日	3 名
平成 28 年度熊本県市町村教育委員会連 絡協議会定例会	平成 28 年 5 月 23 日	1 名
第 1 回校区公民館長会議	平成 28 年 5 月 25 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第 1 回）	平成 28 年 5 月 26 日	2 名
人吉市人権教育推進連絡協議会総会	平成 28 年 5 月 30 日	1 名
人吉球磨地区租税教育推進協議会	平成 28 年 5 月 31 日	1 名
放課後パワーアップ教室開講式	平成 28 年 5 月 31 日	4 名
人吉市教育研究所総会	平成 28 年 6 月 1 日	1 名
第 1 回社会教育委員会	平成 28 年 6 月 2 日	1 名
第 1 回人吉球磨地域特別支援連携協議会	平成 28 年 6 月 8 日	1 名
学校運営協議会（人吉東小）	平成 28 年 6 月 22 日	1 名
人吉市国際交流協会総会	平成 28 年 6 月 23 日	1 名
日本遺産活用協議会総会	平成 28 年 6 月 23 日	1 名
第 1 回人吉市教育支援委員会、人吉市特 別支援連携協議会	平成 28 年 6 月 29 日	1 名
学校運営協議会（第一中）	平成 28 年 7 月 1 日	1 名
ひとよし花まる学園大学実行委員会総会	平成 28 年 7 月 4 日	1 名
御下の乱追悼式	平成 28 年 7 月 7 日	1 名

第1回いじめ問題対策連絡協議会	平成28年7月13日	1名
人吉地区学校等警察連絡協議会	平成28年7月14日	1名
人吉市学校給食センター運営委員会 第1回総会	平成28年7月14日	1名
学校運営協議会（東間小）	平成28年7月15日	1名
夏休みパワーアップ教室開講式	平成28年7月21日	4名
人吉球磨人権教育研究大会	平成28年7月22日	1名
人吉球磨児童による童話発表大会	平成28年7月24日	4名
人吉市ICTを活用した教育推進協議会	平成28年7月25日	1名
人吉市草木山川学校（夏版）	平成28年7月26日 平成28年8月2日 平成28年8月2日	3名
学校安全衛生委員会	平成28年7月28日	1名
犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第2回）	平成28年7月28日	2名
夏休みパワーアップ教室閉講式	平成28年7月29日	3名
史跡人吉城跡保存整備専門指導会議	平成28年8月2日	1名
平成28年度人吉市教育委員視察研修	平成28年8月8日～8月9日	4名
熊本県教育研究所研究発表会	平成28年8月10日	1名
熊本県中体連ブロック大会実行委員会総会	平成28年8月17日	1名
人吉球磨の民謡全国選手権大会実行委 員会（第2回）	平成28年8月18日	1名
犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール予選	平成28年8月20日～21日	2名
第72回熊本県民体育祭人吉球磨大会 実行委員会設立総会	平成28年9月1日	1名
人吉市学校給食食物アレルギー 対応委員会（第1回）	平成28年9月5日	1名
第2回社会教育委員会	平成28年9月7日	1名
教育支援委員会	平成28年9月21日	1名
人吉球磨小中学校長・PTA合同研修会	平成28年9月23日	1名
人吉球磨人権教育研究協議会第3回代 表者会	平成28年9月26日	1名
熊本県公民館大会・社会教育研究大会合 同大会	平成28年9月30日	1名
人吉東小学校運動会	平成28年10月2日	1名
田野校区公民館市民体育祭	平成28年10月2日	1名
第30回熊本県市町村教育長研修大会	平成28年10月6日～10月7日	1名
人吉城歴史館特別展	平成28年10月7日	3名
中原校区公民館市民体育祭	平成28年10月16日	1名
東間校区公民館市民体育祭	平成28年10月16日	1名

第 30 回九州都市教育長協議会定期総会 並びに研究大会	平成 28 年 10 月 20 日 ～10 月 21 日	1 名
花まる学園大学開講式	平成 28 年 10 月 22 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール本選	平成 28 年 11 月 3 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭碑前祭・学校発表会	平成 28 年 11 月 4 日	4 名
犬童球溪顕彰音楽祭音楽のひろば	平成 28 年 11 月 6 日	1 名
第 6 3 回人吉駅伝大会	平成 28 年 12 月 11 日	1 名
人吉市学校安全衛生委員会	平成 28 年 12 月 20 日	1 名
第 3 回社会教育委員会	平成 28 年 12 月 21 日	1 名
人吉市成人式	平成 29 年 1 月 3 日	4 名
読書感想画コンクール表彰式	平成 29 年 1 月 9 日	5 名
第 3 回校区公民館長会議	平成 29 年 1 月 13 日	1 名
犬童球溪顕彰音楽祭協議会（第 3 回）	平成 29 年 1 月 25 日	2 名
平成 28 年度市町村教育委員研究協議会	平成 29 年 1 月 26 日	2 名
中原コミセン成人講座閉講式	平成 29 年 1 月 28 日	1 名
東間コミセン成人講座閉講式	平成 29 年 2 月 5 日	1 名
平成 28 年度熊本県市町村教育委員大会	平成 29 年 2 月 8 日	5 名
人吉市立教育研究所研究発表大会	平成 29 年 2 月 9 日	4 名
いじめ問題対策連絡協議会	平成 29 年 2 月 10 日	1 名
人吉市学校給食食物アレルギー 対応委員会（第 2 回）	平成 29 年 2 月 20 日	1 名
第 1 4 回ひとよし春風マラソン	平成 29 年 2 月 21 日	1 名
人吉球磨の民謡全国選手権大会実行委 員会（第 3 回）	平成 29 年 2 月 22 日	1 名
学校支援ボランティアの集い	平成 29 年 2 月 25 日	1 名
日本遺産人吉球磨シンポジウム	平成 29 年 2 月 28 日	1 名
放課後パワーアップ教室閉講式	平成 29 年 3 月 7 日	5 名
市内中学校卒業式	平成 29 年 3 月 12 日	3 名
人吉市学校安全衛生委員会	平成 29 年 3 月 14 日	1 名
人吉市草木山川学校（春版）	平成 29 年 3 月 18 日	2 名
人吉市学校給食センター運営委員会 第 1 回総会	平成 29 年 3 月 22 日	1 名
第 4 回校区公民館長会議	平成 29 年 3 月 22 日	1 名
市内小学校卒業式	平成 29 年 3 月 23 日	5 名
第 4 回社会教育委員会	平成 29 年 3 月 24 日	1 名
平成 29 年度納入業者指定書交付式	平成 29 年 3 月 30 日	1 名

2 点検評価の目的

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、平成20年4月から施行されました。法改正の目的「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして「教育委員会の点検評価」が位置づけられています。

教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

3 学識経験者の知見の活用

点検評価の客観性を確保するために「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」を図ることとなっています。

教育委員会では、広い観点からの知見の活用を図るため、担当課が行った点検評価の結果について3名の学識経験者から様々なご意見、ご助言をいただき、そのご意見等を参考にしながら点検評価を行ったところです。

○ 学識経験者

赤池 憲二郎（あかいけ けんじろう）氏 市PTA連絡協議会会長
深水 雄二（ふかみず ゆうじ）氏 元市職員
国武 美幸（くにたけ みゆき）氏 元小学校教諭

4 点検評価の対象

平成29年度に点検評価を行う事業は、人吉市教育方針に基づき平成28年度に実施した主要な8事業としました。

○ 人吉市教育委員会が点検及び評価を行った事業

課 名	点 検 及 び 評 価 を 行 う 事 業
教 育 総 務 課	こども王国保安官事業
学 校 教 育 課	特別支援教育支援員配置事業
	学校給食費滞納対策事業
社 会 教 育 課	人吉市学校支援地域本部事業
	ひとよし春風マラソン事業
歴 史 文 化 課	人吉城歴史館管理運営事業
	犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール事業
図 書 館	図書館まつり事業

5 点検評価の結果

教育委員会においては、学識経験者の知見の活用を図りながら事業評価を行い、今後の方向性を示す総合評価をA～Dで表し、最終的な点検評価として意見をまとめました。

(1) 点検評価シートの見方

点検評価シート（評価対象：平成28年度実施事業）

事業名・担当部署						
1	事業名	教育委員会が実施した事務事業名				
2	担当課名	担当課名			担当者	—
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード
				事業の目的に合致した第5次総合計画における政策名称		事業の目的に合致した第5次総合計画における施策名称

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕		誰のために行う事業なのか			
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕		事業の実施により誰を、どのような状態にしたいのか (意図・ねらい・コンセプト)			
6	事業の概要		事業の全体概要			
7	コスト 財源内訳	年度	27	28	29	
		合 計	0千円	0千円	0千円	
		① 国庫補助金	平成27年度にかかったコスト	平成28年度にかかったコスト	平成29年度のコスト予定額	
		② 県補助金				
		③ 起 債				
		④ その他				
		⑤ 一般財源	内：一般財源の額	内：一般財源の額	内：一般財源の額	

事業の成果と課題			
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	平成28年度事業の成果と実績	
9	今後の課題や改善等	平成28年度事業実施に伴い、明らかになった課題と具体的な改善策	

今後の事業計画

10 今後の事業の方向性

平成29年度以降における当該事業の「方向性」

学識経験者の意見

11

教育に関し学識経験を有する者の意見

教育委員会の評価

総合評価

12

総合評価
基準に関
してはP
11のと
おり

教育委員会における意見

(2) 総合評価基準

区 分	評価結果に基づく改善等の内容	内容の詳細
A	継続して管理・運営を進めることが適当	特に問題もなく進捗状況も順調で、計画的に事業を進めるもの。
B	事業の進め方を改善検討し、事業は継続	進捗状況は順調であり、事業内容にも意義があるため継続が望ましいと判断できるが、事業の進め方等に改善の余地があるもの。
C	事業規模・内容、または実施主体の見直しを検討	進捗状況も芳しくなく、結果もあまり期待できないが、事業規模・内容・実施主体に改善の余地があるもの。
D	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	進捗状況が大幅に遅れており、事業そのものに行政が関与する必要がなく休・廃止が望ましいもの。

(3) 点検評価シート (P 13 ~ P 28)

平成 2 9 年度点検評価シート

(8 事業)

目 次

平成 29 年度 点検及び評価

1	こども王国保安官事業（教育総務課）	13～14
2	特別支援教育支援員配置事業（学校教育課）	15～16
3	学校給食費滞納対策事業（学校教育課）	17～18
4	人吉市学校支援地域本部事業（社会教育課）	19～20
5	ひとよし春風マラソン事業（社会教育課）	21～22
6	人吉城歴史館管理運営事業（歴史文化課）	23～24
7	犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール事業（歴史文化課）	25～26
8	図書館まつり事業（図書館）	27～28

点検評価シート <自己点検評価用> （評価対象：平成28年度事業）

事業名・担当部署							
1	事業名	こども王国保安官事業					
2	担当課名	教育総務課			担当者	—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			3	母なる清流球磨川が輝く自然安全都市ひとよし		15	交通安全・防犯体制の充実

事業の内容							
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	小中学校の児童・生徒、地域住民					
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	「子どもたちをやさしく見守るまちづくり」の一環として、児童生徒の登下校及び各種行事等における安全対策を図る。 また、事故や犯罪の発生しにくい環境整備として、地域が一体となって推進する防犯活動や交通安全対策などソフト面の充実も必要なため。					
6	事業の概要	こども王国保安官事業は、平成18年度に「人が子どもたちをやさしく見守るまちづくり」の一環として、児童生徒の登下校及び各種行事における安全対策のため「こども王国保安官設置要項」を制定し、老人クラブ連合会の協力を得てスタートした。今や活動のシンボルとなっている黄色いキャップやジャンパー、ベスト姿が市内各所で毎日見かけられ、明るく元気に活発にボランティア活動が行われている。社会的にも高く評価され市民にも広く周知されており、児童生徒の見守りのみに留まらず、特に登下校時の不審者情報の提供や交通事故の減少にも貢献している。平成23年度に5周年記念大会、平成28年度には10周年記念大会が開催され、各種表彰も受けられている。					
7	コスト 財源内訳	年度	27	28	29		
		合 計	899千円	2,197千円	180千円		
		① 国庫補助金					
		② 県補助金					
		③ 起 債					
		④ その他					
		⑤ 一般財源	899	2,197	180		

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	こども王国保安官事業は、老人クラブ等の協力を得て実施しており、児童生徒が登下校する時間に合わせて活動の時間を調整し、散歩や屋外作業等、日常生活の中で挨拶の励行をする事で児童生徒の行動に目を向け、人吉市らしい利他の精神を持った事業として、地域ぐるみで子どもたちに関わり見守る体制をつくることを目的としている。 各小中学校から、児童生徒の挨拶の励行や地域コミュニケーションの活性化に大いに寄与していると感謝の声が上がっていると共に、感謝の会や給食交流会の開催、お礼の手紙を渡す等、子ども会も含め感謝の意を表している。保護者にも日常的に見守っていただいているという安心感を与えており、地域の安心安全なまちづくりの一助ともなっている。 なお、こども王国保安官の登録人数は平成27年度が549人、28年度が472人であり減少傾向である。
9	今後の課題や改善等	児童生徒を見守り育てていく本事業は、老人クラブを中心に小中学校の登下校時に行われているが、老人クラブ加入者数の減少に伴い人員確保の課題が上がっており継続が危ぶまれている状態である。今後は社会教育事業の中において、地域での活動の一環として各種団体と連携・協議していく必要がある。

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	こども王国保安官事業は１０年間継続しているが、老人クラブ新規加入者の減少と保安官の高齢化により年々登録者が減少しており、活動主体の人材確保が課題となっている。 今後は人吉市老人クラブ連合会だけでなく、個人やその他の組織の方々にも加入してもらいような働きかけを行う必要がある。また、学校、保護者、町内会や子ども育成会等、社会教育事業との連携・協議により、人吉市らしい利他の精神を持った事業を無くさないよう地域で子どもを見守る体制を継続していく。
----	-----------	---

学識経験者の意見

11		・ボランティアで子どもたちを地域で見守る取り組みは１０周年を迎え、保護者をはじめ地域も学校も非常に感謝している。 ・子どもたちの見守りだけでなく、高齢者の方々の生きがいになっている面もあり、相乗効果もあると思われるので素晴らしい活動である。 ・課題として上げられている人員確保の対応については、事業の継続と地域活動の一環としての観点から、関係する団体等と連携・協力することを検討してはどうだろうか。 ・学校支援ボランティアと連携し個人でも活動できる仕組みを検討してもいいと思われる。 ・「Ｂ」評価で適当と思われる。
----	--	---

教育委員会の評価

総合評価		
12	B	こども王国保安官事業は、無償ボランティアで子どもたちの見守りを行い、防犯や交通事故の未然防止に多大な貢献をされている事業であり教育委員会としても大変感謝している。 また、子ども会などの地域や学校からも感謝の会や給食交流、子どもたちの手紙を通し感謝の意を表している一方で、保安官の方々からも成就感や満足感がうかがえ、非常に良い関係性が築かれていると認識している。 事業の意義や貴重性は非常に高く重要と思われるため、今後はその存続のために社会教育関連団体等とも協議を行っていく必要があるが、学校支援ボランティアと重複されている場合もあるので丁寧に慎重に協議を重ね、持続可能な環境作りを推進させる。

点検評価シート <自己点検評価用> （評価対象：平成28年度事業）

事業名・担当部署							
1	事業名	特別支援教育支援員配置事業					
2	担当課名	学校教育課			担当者	—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		10	学校教育の充実

事業の内容							
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市内小・中学校の児童・生徒					
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	支援を要する児童・生徒に対し、生活・学習両面でのきめ細かな指導や個に応じた適切な支援を実現し、学級全体の安定運営と担任教諭の業務負担軽減を図るため。					
6	事業の概要	市内の各小・中学校には、発達障害等の理由により生活や学習面で支援を要する児童・生徒がおり、各学校に特別支援教育支援員を配置することによって、教諭1名による学級指導体制をフォローし、児童・生徒の個に応じた細かな支援・指導体制を確立させる。					
7	コスト 財源内訳	年度	27	28	29		
		合 計	24,950千円	23,319千円	25,595千円		
		① 国庫補助金					
		② 県補助金					
		③ 起 債					
		④ その他					
		⑤ 一般財源	24,950	23,319	25,595		

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	平成28年度は、支援を要する児童が在籍する市内小学校全6校に、合計15名の特別支援教育支援員を配置し、生活・学習両面での細かな支援体制を確立できた。また、担任教諭の業務負担軽減と学級経営の安定化、職場環境の改善が図られ、より充実した支援体制を確保することができた。
9	今後の課題や改善等	支援を要する児童・生徒は増加する傾向があり、各学校からは特別支援教育支援員の増員の要望が多い。あわせて、各中学校には配置していないことから、毎年度、人員増を検討していく必要がある。

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	特別支援教育支援員配置事業は、市が行う事業として趣旨、目的ともに必要な事業であり、今後も継続して実施する。 しかしながら、現状は配置人員が不足しており、各学校からの人員増の要望が後を絶たない現状のなかで、人件費の財源を確保することが必要である。 市全体の財政状況を踏まえながら、財政課と毎年度、協議を続けていかなければならない。
----	-----------	---

学識経験者の意見

11		・ 小学校にのみ支援員が配置してあるとのことだが、特に小学校低学年における支援体制がしっかり整っており、成果も出ているとのことなので是非継続してもらいたい事業である。 ・ 支援を要する児童生徒が今後増加傾向にあることと、支援員の資格の問題があり安定した人員の確保が難しいことも理解したが、小学校だけでなく中学校にも配置できるよう財政部局と粘り強く協議検討していく必要がある。 ・ 特別支援教育の充実とは、対象の児童生徒や教師の問題だけではなく、学校全体で取り組むべきものであり、健全な学校教育の充実を図るうえで非常に重要であることの必要性を訴えていくべきである。 ・ 「B」評価で適当と思われる。
----	--	---

教育委員会の評価

12	総合評価	
	B	小学校においては、低学年における支援体制の充実が注目されるところであるが、中学年・高学年においても同様に支援体制が整備されており、学校全体で誠実に取り組んでいるところである。 特別支援のサポートが小学校から中学校へスムーズに移行・連携していくには、中学校における支援体制の整備が必要であるものの、教科の専門性により人材の確保が難しいことや財政事情により人件費の問題があることは認識している。 今後も引き続き財政課と協議を続け、学校現場からの切なる要望が多いことをしっかり受け止め、その重要性や緊急性を粘り強く伝えていく必要がある。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成28年度事業)

事業名・担当部署							
1	事業名	学校給食費滞納対策事業					
2	担当課名	学校教育課（学校給食センター）			担当者	—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		10	学校教育の充実

事業の内容							
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	人吉市内小・中学校の児童・生徒及び保護者					
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	学校給食は、児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、食に関する正しい理解と適正な判断力を養う上で重要な役割を果たしている。学校給食に要する経費のうち食材費のみが保護者負担（給食費）であるが、その一部については、公費により助成しているところである。そこで、すべての児童・生徒に対し安定した給食を提供するとともに、保護者負担の公平性を期すため、給食費に滞納が生じることのないよう方策を講じるため。					
6	事業の概要	滞納の長期化を防ぐため、未納初期の段階において電話による納付依頼や督促・訪問・呼出を行うなどして滞納解消に努めている。その対応については、学校を主体としているところであるが、改善が図られない場合は、学校長の求めに応じ、PTA会長や給食センターとも連携して実施する一方、滞納が長期または悪質な場合においては、学校給食センター運営委員会が中心となって学校と協議しながら対策にあたることとしている。					
7	コスト 財源内訳	年度	27	28	29		
		合 計	0千円	0千円	0千円		
		① 国庫補助金					
		② 県補助金					
		③ 起 債					
		④ その他					
		⑤ 一般財源	0	0	0		

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	市内の全小・中学校における給食費未納対策の共通化を図り、度重なる督促等にも応じない場合は、学校給食センター運営委員会が関与していくことを明確に示した「学校給食費未納対策システム」を構築した。 また、各学校における未納対策の取組みの結果、平成29年度に繰り越した平成28年度分の滞納は、4世帯分132,012円となり、前年度の26世帯分797,916円を大幅に下回った。 なお、就学時健診時に給食について説明を行い、周知活動も積極的に実施している。
9	今後の課題や改善等	繰り越した前年度滞納分は、当該年度中に解消することが肝要である。 また、古くは平成9年度滞納分の給食費が今もなお納付され続けている一方で、行方不明などにより長期間納入が滞っているケースもある。私法上の債権の取り扱いと同様に、法的な手段に訴えていく方針に加えて、債務者の時効の援用が図られる見込みの滞納分については、債権の放棄も視野に検討を早急に進めていく必要がある。

事業の評価と今後の事業計画

10 今後の事業の方向性

未納対策については、一定の効果が表れており、継続していくことで確実に全体の滞納額が減少していくものと考えられる。
また、課題についても、方法・手段を選ぶのみで、その方向性は定まっているものである。

学識経験者の意見

11

- ・給食費滞納対策において学校間の温度差が解消されるよう「学校給食費未納対策システム」を構築し、学校及び担当者の努力により非常に効果のある運用をされたことは大いに評価できる。
- ・給食費の公費助成事業が、新たな滞納を作らない流れに繋がっていると思われる。公費助成事業については今後も継続し、市の財政状況を考慮しながら拡大していただきたい。
- ・給食費は、食材費が保護者負担となっており、その一部を公費助成していること等、給食費についての理解を深める周知活動を、様々な機会を通し継続実施していただきたい。
- ・現年度分の滞納が飛躍的に減少したことは素晴らしい。しかしながら、過年度分の滞納額は残っており法的手段の活用も含め課題もある。
- ・（課題もあるため「A」に近い）「B」評価で適当と思われる。

教育委員会の評価

総合評価

12

A

給食費滞納対策事業は、学校・保護者・教育委員会による継続した地道な取組と学校給食費未納対策システムの導入が、現年度の滞納額の減少に成果として表れている。

給食費の仕組みや助成制度の理解を深めるための取組として、就学時健康診断時において説明をするなど、周知の機会を増やし理解を深めるための取り組みが見える。

過年度分の滞納額が大きく課題もあるが、現年度分の滞納額の減少は大いに評価できるため、今後の事業推進に期待し「A」評価とするものである。

点検評価シート <自己点検評価用> （評価対象：平成28年度事業）

事業名・担当部署							
1	事業名	人吉市学校支援地域本部事業					
2	担当課名	社会教育課			担当者	—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		9	社会教育の充実

事業の内容							
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	地域住民、小学校・中学校の児童・生徒及び教職員					
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	地域人材の活用による学校教育活動の充実を図るとともに、地域住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域教育力の向上を図るため。					
6	事業の概要	学校支援地域本部事業とは、学校からの支援要請（学習支援、生活安全確保支援、環境整備支援、部活動支援、学校行事支援）を受けて、ボランティア登録をされた地域の方が学校を支援していく、「地域に作られた学校応援団」である。 学校と学校支援ボランティアの連絡調整のため、社会教育課に地域コーディネーターを2名配置している。 学校支援だより「もやい」を年2回発行し、地域（二中校区）での回覧や学校支援ボランティアへ配布している。 地域の各種団体で構成する学校支援推進協議会を年5回開催。 平成28年度は地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰を受賞している。					
7	コスト 財源内訳	年度	27		28		29
		合 計	2,417千円		2,519千円		3,042千円
		① 国庫補助金					
		② 県補助金	30		30		30
		③ 起 債					
		④ その他					
		⑤ 一般財源	2,387		2,489		3,012

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	平成28年度学校支援活動実績は、支援回数154回、のべ支援者数1,031名。 学校支援ボランティア登録者数は、294名（H29.3月末現在）。 地域住民の幅広い参画を得て、地域全体で学校教育を支援する体制が整備され、学習支援、生活安全確保支援、環境整備支援、部活動支援、学校行事支援活動を行った。また、活動外で子どもたちからボランティアへ声かけがあるなどボランティアとのつながりやボランティア同士のつながりが生まれ、地域コミュニティのつながりへと高まってきている。
9	今後の課題や改善等	1回以上活動した登録者の割合は約55%、残り45%のボランティアの方は1回も活動に参加していないことになる。学校からの支援要請により行うため、支援メニューと合致しないと難しい面があるが、登録申請書の見直しも改善の一つと考える。 学校支援活動の充実のために各地域（小学校区）の学校支援ボランティアリーダーの育成を図る必要がある。

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	これからの教育は学校だけがその役割を担っていくのではなく、学校・家庭・地域が一体となって連携、協働して子どもたちを見守り、育てていくことが必要となってきた。 現在、二中校区を対象に実施しているが、人吉市内全校区を対象とした地域学校協働活動へと拡充をし、学校支援活動とともに学校教育活動の一環として、子どもたちが地域へ出て地域活動に参加していく形を目指していく。
----	-----------	--

学識経験者の意見

11		・学校支援地域本部事業は、地域が学校を支える取り組みとして非常に素晴らしい事業である。二中校区だけでなく是非他の校区にも拡げていただきたい。 ・他の校区に拡げていく場合、それぞれの校区には特色や違いがあるため、これまでの取組を尊重し地域の話をしっかり聞き広く周知しながら、より学校・地域・家庭が連携し協働できるよう進めてもらいたい。 ・ボランティア人材バンクとして市の財産となるものであり、今後様々な活用できる仕組みを構築することもあるため、市全体としての活動に期待する。 ・「B」評価で適当と思われる。
----	--	---

教育委員会の評価

12	総合評価	
	B	第二中学校区において学校支援地域本部事業が推進されているが、大変高い評価を得ており文部科学省の大臣表彰も受賞している事業である。他の中学校区にも展開を望む声が多いことから、市全域への拡大を検討し計画的に進めていく。 学校支援地域本部事業としても、地域からの支援だけでなく、学校と地域が双方向に連携・協働していく「地域学校協働事業」へと発展させる必要がある。 第一中学校区で推進している学校運営協議会も重要であるため、活動の両輪としてこちらも全校区へ展開させる必要があるが、地域の状況や意見を丁寧に聞きながら、これまでの各校区による事業活動や経過を考慮し総合的に推進していく。

点検評価シート <自己点検評価用> （評価対象：平成28年度事業）

事業名・担当部署							
1	事業名	ひとよし春風マラソン事業					
2	担当課名	社会教育課			担当者	—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		13	スポーツ・レクリエーションの推進

事業の内容							
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	ひとよし春風マラソン参加者					
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	スポーツを通して、心身の健康や体力向上を図るとともに、市内外を問わず参加者の定着を図り、地域間の交流促進や観光資源等とマッチングした、魅力あふれる地域づくりを目指すため。					
6	事業の概要	“いで湯と球磨焼酎・笑顔の里”第14回ひとよし春風マラソンは、ふるさと歴史の広場をメイン会場に「人吉球磨は、ひなまつり」で賑わう中心市街地や清流球磨川沿いのコースを、6千人近くの参加者が走る大会となっている。					
7	コスト 財源内訳	年度	27		28		29
		合 計	4,275千円		4,275千円		4,275千円
		① 国庫補助金					
		② 県補助金					
		③ 起 債					
		④ その他					
		⑤ 一般財源	4,275		4,275		4,275

事業の成果と課題							
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	平成28年度の大会は5,915名の申込みがあり、約74%は郡市外からの申込みとなっており、地域間交流や地域の活性化に繋がっている。 14回の開催を経て、人吉の春の風物詩といえるスポーツイベントとして定着してきており、リピーターも増えている。 特に市民の温かい声援やボランティアによる「つぼん汁・赤飯・ぜんざい」などのおもてなしは、参加者アンケートでも高い評価を得ている。					
9	今後の課題や改善等	参加者数の増加に伴い、スタート地点や折返し・合流地点の混雑解消が課題である。また、メイン会場周辺の駐車場も少なく、臨時駐車場が少し離れて点在しており、シャトルバスの運行をスムーズに行う必要がある。 これまで雨の影響はあまり見られなかったが、雨天時の対応について考慮する必要がある。					

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	現状の中で精一杯の課題解決を図っていくが、参加者数の増加による根本的なハード面の課題やボランティアの高齢化と負担増に対して、解決策を見い出していく必要がある。 また、市民マラソンの域を超え観光振興策として、観光サイドと連携した事業展開により、本市の魅力を更に発信していくことが、地域の活性化に繋がると考える。
----	-----------	--

学識経験者の意見

11		・参加者も安定し「春風マラソン」として定着している素晴らしいおもてなし事業であり、是非継続して開催してほしい事業である。 ・観光部局と連携するとしてあるが、観光事業そのものと思われるため、スムーズな運営のためにも所管する部局を再度協議し改めて検討する時期が到来しているのではないかと。 ・ボランティアの高齢化や駐車場問題が大きな課題である。ボランティアの一般公募、企業や民家の駐車場の借用等も検討してはどうか。 ・様々な問題に対応するためアンケートの実施やシャトルバス・スタッフ配置を含め各種データの詳細な分析を実施してはどうか。 ・「B」評価で適当と思われる。
----	--	---

教育委員会の評価

総合評価		
12	B	ひとよし春風マラソン事業は、市民にも市外の方々にも広く定着したスポーツイベントであり、参加者を「おもてなしの心」でもてなす人吉市が誇れる事業である。 図らずも熊本城マラソンと同時開催になっているものの、毎年約6,000人の参加者があることはとても喜ばしく、関係者の御尽力により大変健闘していると認識している。リピータも多いのではないかと予想できる。 一方でボランティアの高齢化問題や駐車場不足が慢性的な課題となっており、一歩ずつでもなんとか解決していくよう知恵を絞ることが求められているため、アンケート結果などをヒントに様々な意見を聞き改善に向け進めていく。

点検評価シート <自己点検評価用> (評価対象：平成28年度事業)

事業名・担当部署								
1	事業名	人吉城歴史館管理運営事業						
2	担当課名	歴史文化課			担当者		—	
3	総合計画における 政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称	
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		12	歴史文化遺産の保存と活用	

事業の内容					
6	4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市内外の子どもから高齢者までの来訪者（外国人を含む） 学校、教職員、社会人		
	5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	来訪者が人吉城跡の歴史をやさしく楽しく理解でき、また、学校と連動し、学校での歴史学習を支援し、社会人の歴史文化面での生涯学習活動の機会を創出し、学習を支援するため。		
	事業の概要		展示活動として、人吉城跡及び領主相良氏への理解を深めるための資料展示（常設展）と、テーマを設定し調査研究の成果や本物の資料を展示（特別展、企画展）を行う。 学習・体験活動として、見学、視察の受け入れや、出前講座・出前授業・講演会（特別展の記念講演会、歴史館カレッジ、花まる学園大学、史跡見学会等）を行う。 調査研究として、文化財保護委員会と連携した文化財関連情報の集積と整理研究・レファレンス・「人吉歴史研究」等歴史資料の発行を行う。 施設・史跡管理として、展示品保護や施設維持のための空調、防虫等の管理や史跡管理を行う。		
7	コスト 財源内訳	年度	27	28	29
		合 計	14,718千円	13,021千円	14,292千円
		① 国庫補助金			
		② 県補助金			
		③ 起 債			
		④ その他			
	⑤ 一般財源	14,718千円	13,021千円	14,292千円	

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	平成28年度の入場者は14,072人で、開館以来の累計は180,962人にのぼる。14,072人中、子どもは1,183人、団体扱い2,655人であるが、予約があった団体は把握できるが、当日来館の団体や個人客の市内市外の内訳等の把握はできていない。増加傾向にある外国人入館者対応のため、歴史館の展示物等に英語表記を行った。入館料収入は2,335,800円であった。 特別展平成28年度「免田式土器がつなぐクマモト」と記念講演会を開催し、特別展期間中の入場者数4,262人。アンケートで63%が「良かった」と回答があった。 学校との連動については、教育研究所社会科部会の検証授業（球磨中・相良中）、施設見学受入（鹿児島県中福小・松原小、人吉東小、人吉一中、五木東小、東間小、渡小、深田小、相良北小）等。歴史館カフェを開催し、高校生対象の学習支援機能を模索した。 社会教育の支援について、花まる学園大学3講座（各講座 講演3回 現地研修1回）、東間コミセン講座講師派遣等各種学習の機会を創出した。 歴史館発行図書売上部数は、免田式土器がつなぐクマモト70部 ひとよし歴史研究123部 歴史館パンフレット233部であった。
9	今後の課題や改善等	入場者の市内内外の内訳、外国人の状況、市内の子どもの入館状況等について、日報記録から現状をより具体的に把握する必要がある。 学校との連動について、実績をまとめ、情報の蓄積を今後に生かしていくことが必要。 また、28年度に歴史館を訪れていない市内の小中学校へ歴史館の情報提供及び施設見学の働きかけを行う。 講演会や講座の対象が不明確なので、それぞれの役割分担が必要である。 クルーズ船の八代への入港が増加した影響で、歴史館への外国人（主にアジア系）の入館が飛躍的に増えており、その対応が課題である。 市民が歴史館に来る動機付けが必要である。

事業の評価と今後の事業計画		
10	今後の事業の方向性	平成27年に人吉球磨地域が日本遺産の認定をうけ、その構成文化財である人吉城跡のガイダンス施設である人吉城歴史館は、市民や来訪者の歴史学習の拠点として、ますますその存在意義を大きくしているところである。しかし、開館11年を経て、開館当初からの機能に大きな変化はないものの、経年変化により空調機・パソコン・展示物等に見直しが必要などところが生じている。制度や仕組みとして、市民や市内の子どもたちが歴史館に来る動機付けを行い、学習拠点としての機能をさらに充実させていく必要がある。
学識経験者の意見		
11		・ アンケートを実施し、しっかり分析され成果と課題が明確になり今後に生かせる良いものとなっている。継続してアンケートを実施し、改善や要望に応じていくことが重要である。 ・ 外国人の来館も増えているので、外国人の接遇を考慮していく必要がある。接遇に関しては人材育成の場とらえ積極的に来館者と触れ合うことを大事にしていきたい。 ・ 学校・各種団体・事業所との連携強化を図り、来館していただける工夫が必要である。人吉城以外の展示が可能かどうかの検討や、人吉城ウォーキングコースの設定等イベントとの共同開催も検討してはどうか。 ・ 歴史館カフェの取組は非常にいい事業であるので、もっと広報し拡大してもいいと思われる。 ・ 「B」評価で適当と思われる。
教育委員会の評価		
12	総合評価 B	人吉城歴史館は開館から11年が過ぎ、市外から来館される方々も多くおられると共に近年では外国人の方の来館も増加している。リピーターも多いが、まだまだ施設そのものの周知が不足している面もあるため、アンケートの分析を生かしながら今後の魅力ある管理運営に生かしていく。 歴史館に来館する動機付けとして、人吉球磨歴史学の認定制度や歴史観光ボランティアを子ども向けに検討するなど、学校へこちらから出かける工夫も重要である。 市の財政状況を考慮しながら施設の老朽化対策や充実化を図る必要がある。また、サービスを考えるうえでは、団体客などの大人数への対応や外国人への対応を考慮し、靴のまま入館できる施設づくりも検討の余地があると思われる。

点検評価シート <自己点検評価用> （評価対象：平成28年度事業）

事業名・担当部署								
1	事業名	犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール事業						
2	担当課名	歴史文化課			担当者		—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称	
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		11	市民芸術・文化の振興と継承	

事業の内容						
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕		小中高生			
	5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕		郷土の偉人及び人吉市名誉市民である犬童球溪先生に続く音楽家を育成する目的で開催することにより、若いころから個々の演奏技術を高め、舞台での演奏経験を積み、他者と競い合うことで、より高い感性と演奏力を身につけ、国内外に通用する音楽家や音楽教育者の育成を目指すため。		
		6	事業の概要		第70回犬童球溪顕彰音楽祭「個人コンクール」では、独奏部門を小学生低学年（1・2年生）、中学年（3・4年生）、高学年の部（5・6年生）、中学生の部、高校生の部と、独唱部門を中学生の部、高校生の部の全7部門を開催。8月20日（土）に独奏全部門の予選を、8月21日（日）に独唱全部門の予選を開催し、その通過者に対し、11月3日（木・祝）に全部門の本選を開催した。なお、参加料は開始当初から無料で実施している。	
7	コスト 財源内訳		年度	27	28	29
		合 計	2,110千円	2,348千円	2,176千円	
		① 国庫補助金				
		② 県補助金				
		③ 起 債				
		④ その他				
		⑤ 一般財源	2,110	2,348	2,176	

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	8月20日（土）開催の独奏部門（予選）に58名の申込、56名の出場。8月21日（日）開催の独唱部門（予選）に53名の申込、51名の出場があり、46名が本選へ通過。うち、本選へは45名が参加。最優秀賞である球溪賞を各部門別1名ずつの計7名、優秀賞を8名、奨励賞10名、努力賞20名が受賞した。うち、独奏部門高校生の部、独唱部門の中高生の部においては、人吉球磨地域からの出場はなかった。
9	今後の課題や改善等	音楽祭は、犬童球溪先生の顕彰を目的として、昭和22年から毎年1回、70年間欠かすことなく市が主催となって継続されてきたが、個人コンクールについては、開始時期や経緯などがわかる資料や記録などは残されていない。 現在、民間主導で数多くのコンクールが有料で開催される中、市主催で行う事業の一環として、本コンクールを開催する意義・目的を再確認する必要があり、いかにして碑前祭や学校発表会、音楽のひろば（タベ）などの他事業と関連づけるかが課題である。 また、市内のホールで開催しているが、独奏部門の高校生、独唱部門の中高生の3部門においては、人吉球磨地域からの出場者がなく、今後、いかに地域の音楽教育の維持向上を担うかが課題である。

事業の評価と今後の事業計画		
10	今後の事業の方向性	犬童球溪先生に続く音楽家や音楽教育者を育成し、地域の芸術と文化を発展させるという観点から、子どもの無限の可能性を伸ばし、成長を促すという点において、一定以上の効果を上げている事業である。 国内外における民間主催による参加費有料のコンクールとの差異や、人吉球磨地域におけるコンクールの位置づけなどを明確にすることで、今後の事業展開を検討する時期にあると考えるため。
学識経験者の意見		
11		・ 70年も継続開催されている素晴らしい事業であり、その歴史と伝統に敬意を表したい。 ・ 個人コンクールを鑑賞することにより緊張感等を肌で感じられ、小中学校生へ与える影響も大きいと考えられる。子どもたちが鑑賞できるようなやり方を検討することも重要である。 ・ コンクールの要素が強い事業であるが、犬童球溪先生の顕彰音楽祭の一環としての位置づけでもあることから、今後広く一般市民へ展開するのか、現状のまま改善していくのか一度原点に返って検討することも重要と思われる。 ・ （課題はあるが「A」に近い）「B」評価で適当と思われる。

教育委員会の評価		
12	総合評価 B	長い歴史に培われた伝統は、犬童球溪先生の顕彰個人コンクールに相応しく格式の高いものとなっている。ふるさとが生んだ偉人に敬意を表しその功績を称えながら、今後も継続していくべき事業である。 参加料の問題は、犬童球溪顕彰音楽祭実行委員会で議論されていくこととなるが、有料にするか無料のままにするかも含めコンクールの在り方を時間をかけて継続的に検討していく。 結果としてどのような方向性になるとしても、どなたにも明確に説明ができるよう整え、真摯に丁寧に周知していく必要がある。

点検評価シート <自己点検評価用> （評価対象：平成28年度事業）

事業名・担当部署							
1	事業名	図書館まつり事業					
2	担当課名	図書館			担当者	—	
3	総合計画における政策体系	政策	コード	名称	施策	コード	名称
			2	美しき相良700年の歴史文化都市ひとよし		9	社会教育の充実

事業の内容							
4	誰のために行うか 〔具体的な対象者・受益者など〕	市民全般					
5	何のために行うか 〔目的・ねらい・コンセプト〕	「図書館まつり」というイベントを通して、図書館へ足を運んでもらうきっかけを提供し、市民の方々に更なる図書館の利用促進を図るとともに、読書活動の推進も併せて推し進めるため。					
6	事業の概要	平成29年1月9日（月：祝日）に開催。内容は、平成28年9月から10月に募集した「読書感想画コンクール」の優秀作品表彰式と応募作品の全点展示、劇団パレットによる人形劇「ピノキオ」の上演、マジックショー、ブックリサイクルなどを行った。従前はカルチャーパレス会議室やロビー等を利用して2日間の日程で開催していたが、H28年度は、庁舎機能の移転により同様の開催が困難となり、会場をカルチャーパレス小ホールに移し、日程も1日に短縮して開催した。					
7	コスト 財源内訳	年度	27	28	29		
		合 計	272千円	203千円	283千円		
		① 国庫補助金					
		② 県補助金					
		③ 起 債					
		④ その他					
		⑤ 一般財源	272	203	283		

事業の成果と課題		
8	成果・実績 【数値にできる場合は数値も含めてコメント。数値にできない場合はコメントのみ。】	「読書感想画コンクール」の優秀作品表彰式は小ホールのステージ上で、応募作品の全点展示（637点）は大ホール入り口前のロビーでそれぞれ行った。前年度まで、カルチャーパレス会議室や入口ロビー等で行っていた同イベントは、熊本地震による庁舎機能移転の影響を受け、場所を移しての開催を余儀なくされたが、従前よりも広いスペースで開催できたため、結果的に読書感想画の展示スペースおよび規模の拡大など、イベントとしてはプラスの効果が得られたことも少なからずあった。ただし、ホールへの来客の収容率は、会場のキャパシティに対しては低いものであった。
9	今後の課題や改善等	今年度以降も、平成28年度と同様の開催運営になることが予想される。当該年度の内容をしっかりと検証した上で、小ホールの利用により開催スペースが広がった分をどのように活用し、当該イベントの内容充実につなげるかが今後の課題と捉えている。また、集客につながる企画・広報などに更なる改善・工夫が必要と考える。

事業の評価と今後の事業計画

10	今後の事業の方向性	当該年度は場所を移しての開催1年目ということもあり、手探りでの開催であったが、今後は年度毎に改善を積み重ね充実させていく。また、図書館におけるイベントの開催は、図書館へ足を運んでいただくきっかけづくりに重きを置くものであり、集客力をどう高めていくかが重要と考える。限られた予算と人員で運用する中、小ホールでの開催というメリットを最大限活かし、魅力あるイベントになるよう、読書感想画の展示やその他のコンテンツの内容を検証し充実させながら再構築を進めていく。
----	-----------	--

学識経験者の意見

11		・熊本地震の影響で、図書館まつり会場も変更せざるを得ない状況になったが、逆に展示場は広くなる等プラス思考で工夫しながら事業を展開している。 ・読書感想画コンクールの出展は夏休みを利用するなどして小中学校への呼びかけをしてもいいのではないかと。地域活性化のため、展示についても各校区コミセン等他の場所での長期の展示も検討してはどうか。 ・会場のカルチャーパレス小ホールから図書館までの誘導にひと工夫必要と思われる。 ・ブックリサイクルの規模拡大についての検討も進めているとのことだが、読み聞かせやブックトークの開催など体験できる参加型のイベントとしても検討してほしい。 ・「B」評価で適当と思われる。
----	--	---

教育委員会の評価

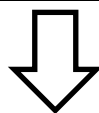
12	総合評価	図書館の意義は、地域の歴史を守り地域の文化を育て地域の記憶を次世代へ継承することであり、図書は知識と文化の有力な流通手段であることの重要性を広め活用していただくことである。まずは図書館に来館させる取り組みが大事であり、図書館まつりは「まつり」としての工夫が見られ集客力アップに役立っていることから、改善の余地はあるが今後も継続していくべき事業である。 読書感想画については、数が多くなると選考に苦慮するため学校ごとの代表数人に絞るなどの課題があるが、小中学生から募集することも検討する必要がある。 展示場所も校区コミセンなど他の公共施設での長期展示も考えられ、読書感想文や創作童話の募集、体験参加型の企画なども検討の余地がある。
	B	

< 教育方針 >

《 基 本 理 念 》

本市は、「市民が様々な可能性を追求することができ、かつ美しい自然や歴史を未来に継承しながら、活気と賑わいに満ちた健康で笑顔で暮らせるまちづくり」を進めています。本市教育は、このまちづくりの理念のもと、市民一人一人が自ら学ぶ意欲を養うことで、将来の夢や希望に向かって自らの可能性を高め、人間力（人として生きる力）を育み、心身ともに健康で豊かな人生を送ることができる生涯学習社会の実現を目指します。

このため、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携協力しながら、社会状況の変化に対応する教育の向上に取り組み、豊かな人間性と創造力・国際性を備えた人材の育成や、たくましく生きる力を育む教育を推進します。



< 教 育 目 標 >

I 生きがいを持って生活できる学習環境の整備

市民が、生涯にわたって自発的に学び、芸術・文化・スポーツ等に親しむことを通して、生きがいを持って生活できる学習環境の整備を推進します。

II 家庭・地域の教育力の向上と支援体制の充実

家庭や地域の教育力の向上に向けた取り組みを推進するとともに、学校、家庭、地域社会が連携して子どもを育てる環境づくりを推進します。

III 「知・徳・体」の調和のとれた力を育む学校教育の推進

子ども一人一人の個性を尊重してその能力を伸ばし、個人として、社会の一員として生きる基礎となる「知・徳・体」の調和のとれた力を育む学校教育を推進します。

IV 人吉市民としての誇り、郷土愛を育む歴史・文化環境の整備

豊かな自然とそれを背景に培われた歴史と文化を守り、活用に努めるとともに、人吉市民としての誇り、郷土愛を育む環境整備を推進します。